

わくわくNAGURI通信

わくわく名栗クラブは埼玉県飯能市名栗地区の活性化に取り組んでいます



上名栗の石仏

第10号記念

都内から90分でアクセスできます

写真 切り通しの石仏
(柏木橋バス停から徒歩3分)

飯能市名栗(はんのうしなぐり)地区は都心から50km、西武池袋線・池袋駅から電車とバスを利用すれば90分でアクセスが可能です。緑豊かな山や清流、伝統ある行事・史跡などを気軽に楽しむことができます。

アクセス方法

- ◆ 電車・バスをご利用の場合
西武池袋線「飯能」駅下車、駅北口3番のりばから国際興業バス 名郷行・湯の沢行約50分(又は名栗車庫行)(名栗車庫行の場合、目的地までが遠方になります。)
- ◆ 中央自動車道(八王子JCT)をご利用の場合
圏央道「青梅IC」を降り、岩蔵街道から成木街道を経て名栗・秩父方面へ約30分
- ◆ 関越自動車道(鶴ヶ島JCT)をご利用の場合
圏央道「狭山日高IC」を降り、国道299号から県道70号(飯能下名栗線)を経て約40分



Facebookページ [名栗へようこそ!](#) にて最新情報を発信しています。ぜひご覧ください

飯能市 国際興業(株) 飯能商工会議所 (一社)奥むさし飯能観光協会は、わくわくNAGURI通信を応援しています
お問い合わせ：わくわく名栗クラブ事務局(飯能市名栗地区行政センター内) ☎042-979-1121

石仏を巡る小さな探検

国際興業バスに乗って、楽しい石仏巡りの旅
上名乗編 伊勢文化財「名園の石仏」を東洋村教育委員会



浜居場の馬頭観音 寛政10年(1798)
 浜居場を渡り、住まぬを少し風に吹くと、互馬相のお堂に馬頭観音が立てられている。この馬頭観音の三面六臂の造像は、きめ細かい彫りをそのまに感じ、作りの良さでは名乗でも上位に入っている。

湯の沢の石仏
 湯の沢のバス停から徒歩500mほど進むと右急カーブがあり、その手前の五刹面を上がったところの岩に神像がまつられている。地神像は真面目をいただいて首に巻くくんと風船を差してくくれる。人々は風船がおぼろ、お札には真摯を信じて併せていたという。

切り通しの石仏 ①井財天 天保3年(1783)
 奥蔵から切り通しの右の石段を上り、伯林寺への参道を進んだ左手の斜面に井財天は立てられている。さらに数メートル進んだところから切り通しの右の頂上へ登ると地蔵菩薩が迎えてくれる。こちらも自然石を利用した、どっしりとした姿である。名乗川を垂直に見下ろす岩場もあるので注意をしよう。

馬頭観音 文化9年(1812)
 地神像の右急カーブの先の老神像を渡り、左に旧道を入ると地蔵として馬頭観音を立てられている。髷をまとった頭上をふくららとつむむ布は石の形状と合わせて独特の石仏をつくり出している。



稲村の薬師堂
 旧名乗中学校と通路を挟んだ丘の上に建つ。



稲村の六地藏 享保16年(1731)
 稲村の薬師堂の前に立つ、円柱に六体の地藏菩薩を刻んだ珍しい六地藏。薬師堂の正面にお参りをした人々は、この地藏菩薩の頭の上に石をのせて拜んだという。



鳥居の阿彌陀如来 萬永7年(1854)



鳥居地区と蔵地区との境に念仏堂が建てられていて、50年くらい前までは念仏が行われていたという。朝日影は、そのお堂の前でとられていたが、今は白雲山に移されて参詣を導く人を導いている。

名乗を代表する観光名所「白雲山鳥居御堂」は、歩道を通って、仁王門と恩重堂の間に立つ阿彌陀像を探してみよう。

鳥居地区の「阿彌陀如来」

明治43年(1910)に穴沢を襲った大雨による山崩れで、6軒の家が埋没。7、8、21名の人々が亡くなった。昭和に入り、日蓮宗を再興すると共に、地蔵菩薩、追善堂が立てられ供養されている。

①阿彌陀如来 明治43年の災害から7年経った七年忌に、活されたままになっていた阿彌陀如来と石仏4体を集めて供養した。真新しい美しい頭巾と胡蝶が飾られていた。

②日蓮権現 昭和11年(1936)左 昭和12年(1937)中 昭和17年(1942)右